



会報 JAMT

JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

発行所

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会

発行責任者 横地常広

編集責任者 深澤恵治

〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号

TEL (03) 3768-4722 FAX (03) 3768-6722

ホームページ <https://www.jamt.or.jp>

P1～P3 全国「検査と健康展」2025 各地からの報告 第5回

P3 令和8年 賀詞交歓会を開催

P4 岡山県臨床検査技師会「岡山県災害時公衆衛生活動への協力に関する協定」を岡山県と締結

全国「検査と健康展」2025 各地からの報告 第5回

和歌山県

今年の全国「検査と健康展」和歌山会場は11月15日（土）にスーパーセンターオークワパームシティ和歌山店3階ジストホールで開催しました。今年のブースを紹介すると「白衣試着体験」「乳房触診体験」「臨床検査と検査項目の説明・パネル展示」「臨床検査技師養成学校のパンフレット設置」「頸動脈エコー体験」「顕微鏡体験（血液像・細胞診）」「AED模型体験」「物忘れタブレット体験」「認知症に関するポスター掲示」「みんな知ってる？臨床検査技師のしごとDVD上映」「アンケート記入」です。施設に買い物に来られた方や、会場の隣りにあるスポーツクラブにはお子様の体操クラブや水泳教室等があり多くの親子連れが興味を持って来場してくれました。ご年配の方も多く来場いただき、特に超音波検査や物忘れタブレットに興味を持ってくださいました。その結果、昨年を上回る164名の方々に来場いただく事が出来ました。今回、初めての試みであったAED模型体験では、「テレビで見た事あるけど、実際にやってみたかったんよ」との声が聞かれ、私たち医療従事者と違い、市民の方々は研修や体験できる場があまりない事にも気づき、良い機会となったのではないかと感じた。アンケートには「子供が興味を持って良かったです」や「体験する事で臨床検査技師の仕事がよくわかりました」などのご意見を頂きました。また、「検査を受ける大切さを痛感しました」など来場頂いた方々には少なからず臨床検査技師の仕事と検査の重要性を認識して頂けたのではないかと思います。また、「毎年やってるんだって？来年も是非来たいわ」と嬉しいお声を頂戴する事もできました。今後も和歌山県臨床検査技師会は、さらに内容を吟味し市民の皆様の健康づくり、健康意識に貢献できるような「検査と健康展」を企画致します。最後にご協力頂いた機器メーカー様、一緒に頑張って頂いた実務委員の皆様に感謝申し上げます。

（和歌山県臨床検査技師会 橋本 安貴子）



福井県

今年度は尿一般検査、脳年齢及び骨密度測定、又、モニター付き顕微鏡を使用し、血液、病理部門など共同での鏡検コーナーを設ける事としました。会場であるショッピングモールの館内での勧誘の規制や他団体の健康フェアも重なって来場者は例年と比べてまばらでありました。集客を強化するため、イベント告知の発信する期間・頻度やタイミング、告知する方法（Webサイト、SNS、広告、他団体とのコラボレーションなど）も今後検討していこうと考えています。そういった中でも簡便に計測可能な脳年齢・骨密度測定コーナーは人気で体験される方が多く、70～80名近くとほぼ来場者の大半が計測されて帰られる状況でした。次回は企画の段階で予め誰に向けてのイベントなのかターゲット層を明確化し、その層に響くような新しい企画提案をしていきたいと思っています。

（福井県臨床検査技師会 猿木 邦之）



長野県

長野県は11月16日にかんてんばばガーデン・モンテリイナにて全国「検査と健康展」を開催しました。企画は超音波、顕微鏡検査検体採取やピペット操作を行う臨床検査技師体験ブース、血糖測定やABI、骨密度、認知機能検査を行う無料健康チェックブース、進路相談、検査説明を行うブースを設けました。

総来場者数は約220名で、超音波 100名、顕微鏡 約30名、検体採取 52名、ピペット操作 35名、血糖測定 150名、骨密度（放射線技師）130名、認知機能検査 73名、ABI検査110名、進路相談4名、検査説明7名の参加がありました。臨床検査技師体験ブースではお子さんが検査技師になりきり検体採取やピペット操作を楽しそうに体験し、超音波や顕微鏡検査体験では大人の方も興味深々、わくわくした様子で体験していただきました。無料健康チェックブースは行列ができる程大盛況で、健康増進への意識高揚に貢献できたと考えます。進路相談ブースでは、学生のみならず保護者の方も熱心に進路相談や卒後についても積極的に質問をしてくれました。来場者の方から「素晴らしい活動だ」「楽しかった、やってよかった。またやりたい」「臨床検査技師さんにはお世話になってるんだよ」といったお声も沢山いただきとても有意義な活動になりました。

（長野県臨床検査技師会 中山 朋秋）



兵庫県

令和7年11月23日（日）、神戸市長田区の神戸常盤大学にて開催された「KOBE TOKIWAふれあい健康フェスタ2025」との共催企画として、「検査と健康展」を実施しました。

当日は、頸動脈エコー・体組成測定・Hb測定・血管年齢測定・骨密度測定の健康チェックコーナーに加え、子ども向け体験ブース、兵庫県臨床検査技師会による広報ブースを設置し、地域の皆さまに臨床検査技師の業務内容を紹介しました。健康チェックには、頸動脈エコー147名、体組成測定132名、Hb測定239名、血管年齢測定240名、骨密度測定211名と、多くの地域住民の皆さまにご参加いただきました。毎年の参加者も多く、地域の健康意識の高さと、このような機会への継続的なニーズを改めて実感する結果となりました。また、今年度は新たな試みとして「中高生向け臨床検査体験コーナー」を開設しました。県内の臨床検査技師養成校との協働により実施し、保護者を含む6組の方々にご参加いただきました。臨床検査技師という職業を進路の選択肢として知っていただく、非常に有意義な機会となりました。

この企画を通じて、臨床検査技師という職業への理解を深めていただくとともに、中高生の皆さんが将来の進路選択の一つとして臨床検査技師を考えるきっかけづくりにもつながったと感じています。

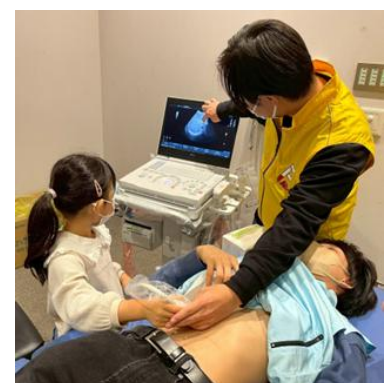
（兵庫県臨床検査技師会 澤村 暢）



福岡県

令和7年11月9日、久留米シティプラザ展示室にて「全国検査と健康展in福岡」を開催した。当日は朝まで雨が残り集客が懸念されたが、最終的に来場者は320名に達し、盛況のうちに終了した。各部門では臨床生理187名、生物化学分析137名、病理細胞診163名、臨床検査総合144名、一般検査147名、臨床血液188名、輸血細胞治療160名、臨床微生物158名、国際医療福祉大学215名、久留米大学179名の参加を得た。来場者からは「とても良い経験になった」との感想が多く寄せられ、同館で別イベントを行っていた医療関係者からも来場した参加者の方が「すごくよかった」と言っていましたと満足して頂いたようでした。今回は久留米大学および国際医療福祉大学の学生ボランティアの協力により、紙芝居による臨床検査技師紹介やピペット操作・顕微鏡観察・エコー体験などを実施し、検査技師の仕事を身近に感じてもらうことができた。一方で、中高生を対象とした学校案内は70校中2校の反応に留まり、広報体制の早期構築や教育委員会経由での案内強化が今後の課題である。

（福岡県臨床衛生検査技師会 野田 哲寛）



長崎県

今回は来場者が医療や健康について理解を深めることを目的とし、以下の体験・展示を実施した。

来場者の血液中ヘモグロビン値を測定し、健康状態の確認を行った。手洗い体験では、正しい手洗い方法を体験し、衛生習慣の重要性を学んでもらった。医療現場で使用される超音波機器を操作し、検査の仕組みを体験してもらった。顕微鏡を用いて細胞を観察し、科学的な興味を育んだ。子供が白衣を着用し、医療従事者の雰囲気を感じた。臨床検査の役割や重要性について、ポスター展示を通じて紹介した。医療技術者をめざす来場者に向け、学校の概要や進学情報を提供した。本イベントは、健康チェックから教育的な体験まで幅広い内容を含み、子供から大人まで楽しみながら医療や検査の重要性を学ぶ機会となった。臨床検査技師の活動を広く周知するとともに、地域住民の健康意識向上に寄与した。



(長崎県臨床検査技師会 川崎 辰彦)

鹿児島県

2025年11月16日（日）に「第11回全国検査と健康展 in 鹿児島」がセンテラス天文館6Fホールで開催され、88名の来場がありました。昨年より鹿児島大学大学院法医学分野の先生方と入浴事故におけるアンケート調査も共同で実施しており、ヒートショックについて大変多くの方に興味と理解をいただくことができました。毎年実施している頸動脈超音波検査体験では体験者の63%に異常が観察され、検査受診を勧める機会となりました。また、乳がん検診体験に参加された多くの方が検診を受けていない状態であり、がん検診の重要性と受診に関する情報提供のあり方を見直すきっかけにもなりました。検査と健康展を県民の皆様により周知し、検査の重要性を理解していただけるように活動を続けていきたいと思っております。



(鹿児島県臨床検査技師会 入木猛利)

令和8年 賀詞交歓会を開催

都市センターホテル3階「コスモスホール」において、令和8年日臨技賀詞交歓会が開催されました。当日は国会議員6名（代理出席2名）、厚生労働省3名を含む招待者39名や賛助会員、都道府県会長、日本臨床検査技師連盟各役員等、総勢260名ほどのご参加を得て、盛大に開催されました。

冒頭、当会代表理事の西浦副会長の開会宣言後、横地会長の挨拶、参議院議員の小川克巳先生、おなじく参議院議員のかまやち敏先生、京都府向日市市長の安田守先生、臨床検査関係を代表として日本臨床検査振興協議会の村上正巳理事長、さらには医療界を代表してチーム医療推進協議会の上田克彦代表にご挨拶いただきました。

引き続き、乾杯のご発声を日本衛生検査所協会の久川会長にお務めいただいた後に、暫くの間ご歓談いただき、この間に各御招待者のご紹介や祝電のご披露、本年9月に開催予定のIFBLS学会のご紹介を小松副学会長と日臨技執行部が、同学会PRの法被を着てご披露するなど、一同が和やかな雰囲気の中で出席者の交流が行われました。最後に中締めとして日本臨床検査薬協会の小野徳哉会長にお言葉をいただき、続いて当会代表理事竹浦副会長の閉会挨拶と、盛会のうちに閉会いたしました。

本事業は国政、行政、業界関係者が一堂に会する年次行事として定着しつつあり、次年度からも継続して実施する事業と考えております。



小松専務からの IFBLS2026 の紹介

(専務理事 深澤 恵治)

岡山県臨床検査技師会

「岡山県災害時公衆衛生活動への協力に関する協定」

を岡山県と締結

岡山県臨床検査技師会 会長 藤岡 克徳



この度、岡山県と岡山県臨床検査技師会は令和8年1月14日、岡山県庁にて「岡山県災害時公衆衛生活動への協力に関する協定」を締結しました。技師会としての県との協定締結は全国で16例目となりますが、岡山県内では職能団体としての協定締結は23例目となり若干遅くなった感は否めません。締結した主な活動内容としては被災地の病院検査室における診療支援、避難所等でのDVT検査等の健康管理支援を想定しています。今まで他県が締結された協定同様、派遣に関する経費や試薬等の費用ならびに保険に関する内容についても盛り込んだ内容となっています。一昨年の2024年9月24日に

岡山県庁で開催された「岡山県公衆衛生功労者表彰式」において当会の林敦志副会長が県知事表彰された際、表彰式の担当者に無理を言って担当課を紹介して頂いて以来、交渉を重ね約1年数か月での協定締結となりました。県とは比較的スムーズなやり取りではありましたが、年度跨ぎで県の担当者が人事異動で県内自治体へ出向となり少し時間がかかったように思います。

実施の協定締結式では残念ながら多忙のため岡山県知事には出席していただけませんでしたが、代理として辰巳秀爾 岡山県保健医療部長と則安俊昭 保健医療統括監、そして岡臨技からは私と副会長の林敦志、植本美佐夫、中川尚久の各氏、総務部部長の福島明德氏、監事の高津昌吾氏に加え、お忙しい中ではありましたが立会人として岡山県議会の加藤浩久、渡邊直子の各議員にも参加していただき和やかな雰囲気の中で執り行われました。辰巳保健福祉部長からは「臨床検査技師の専門性を生かした活動に期待する」旨と「実際の活動時に人材確保の方法について」の質問があり、私から「DVTをはじめとする専門性を生かした活動と、きめ細やかな避難所での活動や県内外の被災検査室への派遣を行いたい」ことに加え「岡山県のお墨付きを頂いたので各施設への人材募集広報がやり易くなる」ことと「2026年4月から日臨技で災害支援人材登録制度が始まるので日臨技との情報共有を行いたい」との回答を行いました。

岡山県臨床検査技師会では2025年度に引き続き、2026年度も災害対策強化年と位置づけ、災害対応に関する講習会等を企画しています。また昨年、定款を改定して理事の定数を増やしたので、そのうち1名は災害担当理事として活動していただくように組織運用を変更する予定です。

この協定締結を新たなスタートととらえ、実際の運用に必要な「災害対応マニュアル」のブラッシュアップを図るとともに、県内会員に広く広報を行い少しでも関心を持ってもらえるようにしていく所存です。中四国支部9県に加え、近隣の近畿支部とも協力体制を構築する必要もあると考えています。

最後になりましたが、災害時に臨床検査技師のできる事は何かを考え、その役割と臨床検査技師の専門性を生かすことで、広く県民の命と健康を守るという使命を果たしていきたいと思います。

「今の震災・台風・局地的な大雪や大雨はいつどこで起きても不思議ではないほどあちこちで発生しています。50年に一度と言われるような災害が、今後毎年のように発生するかもしれません。災害なんか起こらないに越したことはない！しかし備えあれば憂いなし。」

「都道府県によりやり方は様々あると思うが、方向は一緒その時医療人として臨床検査技師に何ができるのかその時のために準備があるはずです。安全・安心、迅速に活動できる環境とスタッフ育成のために、災害協定や災害対策訓練をやっておきたいものです。」

(多田)